

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：52501

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26884076

研究課題名(和文) 明治期の西鶴流行現象における内田不知庵の西鶴評価と翻刻出版に関する総合的研究

研究課題名(英文) A study on the criticism of Uchida Fuchian about Ihara Saikaku and the reprint publication in Saikaku's popular era during the Meiji period

研究代表者

大貫 俊彦 (ONUKI, Toshihiko)

木更津工業高等専門学校・その他部局等・講師

研究者番号：70738426

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：明治20年代前半における井原西鶴の流行現象に関する研究を新たな観点から行った。まず、この現象にコミットした文芸批評家内田不知庵の批評を取り上げ、そこで取り上げられた西鶴の評価と彼が提示した同時代的な意義について検証した。続いて批評と連動して行われた「武蔵屋本(武蔵屋叢書閣の翻刻出版)」の出版事業に焦点を当て、その編集方針を緒言や伏字などに注目しながら考察した。さらに武蔵屋本以外の翻刻本の編集方針を検討し、明治期の西鶴本の翻刻の方針に関する全体的な傾向を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to investigate the revival of Ihara Saikaku in the Meiji period. The writings of Saikaku have attracted extensive attention especially among Meiji novelists. And this phenomenon and Uchida Fuchian are said to have a deep relationship. Regarding this phenomenon, I analyzed it from a new point of view. First, I regarded the criticism that Uchida proposed. And then, I focused on the method of his criticism. Second, I verified the text of the reprinted works of Saikaku. A publishing company known as Musashiya published this reprinted version, and was believed to have a close relation to Uchida. There were also several publishing companies which were involved in publishing the reprints of Saikaku's writings. Therefore, based on this fact, I also did some research on these companies in order to determine the editing methods of Saikaku's works, which in turn, will enable me to obtain a full understanding on the overall tendency of the transformation of works.

研究分野：日本文学

キーワード：井原西鶴 内田不知庵 翻刻 出版文化

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 明治20年代の文芸思潮を俯瞰する時、淡島寒月による井原西鶴の「発見」とその「流行」は、それまでの急激な西洋文化摂取の反動としても、また同時代の文学界に与えた影響の大きさから考えても、特筆すべき現象として理解されてきた。この現象については、これまで久松潜一氏や暉峻康隆氏、前田愛氏、江藤淳氏ら数多くの先学が取り組んできたことで知られている。そして「明治二十年代前半期における紅・露の小説は、ともに西鶴に学ぶところが多く、とくにその文体での西鶴摂取にはいちじるしいものがある」と岡保生氏も述べているように、これらの研究が集中的に議論してきたのは、当時、根強い人気のあった須藤南翠や饗庭篁村と一線を画し、新しい表現を摸索していた尾崎紅葉、幸田露伴、そしてやや時期は遅れるが西鶴によって作風を一変した樋口一葉の作品への影響に関する研究である。

(2) 井原西鶴が明治20年代の小説家に与えた影響の大きさを考慮すれば、その文体や表現に研究が集中するのは当然である。しかし、その結果、この時期の西鶴の流行現象を捉える研究としてはテーマに偏りが生じている。より巨視的にこの流行現象を捉えるならば、作家個人の問題を越えて、そこには西鶴の作品を新鮮なものとして受け入れるための土壌、すなわち思想的・文化的、あるいは出版文化的な背景が形成されていたと考えられる。本研究が着目したのはこの点においてである。

### 2. 研究の目的

本研究は、明治20年代前半における井原西鶴の浮世草子の流行現象に関して、小説家とは異なるかたちでこの現象にコミットした文芸批評家内田不知庵（後の内田魯庵）を中心に考察を行うものである。具体的には不知庵の西鶴評価と彼が提示した同時代的な意義を検証し、批評活動と一部連動して行われた「武蔵屋本（武蔵屋叢書閣の翻刻出版）」の出版事業に焦点を当てて捉え直すことを目的とする。

これは、上記の研究背景でも触れているように、従来の研究で指摘されているような淡島寒月が起点となった井原西鶴の「発見」という出来事や、当時、小説を執筆するに際して新しい表現を摸索していた尾崎紅葉、幸田露伴、樋口一葉らに見られる創作活動への刺激、つまり、主に文体面における影響に重点が置かれてきたこれまでの西鶴受容論から脱却することを試みるものである。

### 3. 研究の方法

本研究は西鶴の流行現象に関して、批評家としての内田不知庵の西鶴評価とその同時代的な意義を検証し、それと連動する「武蔵屋本」の出版事業に焦点を当てて捉えることを目的としている。以下、そのための研究方法

について記す。内田不知庵の西鶴評価とその批評的な手法の検証については、新聞・雑誌に掲載された初出を原本とし、適宜『内田魯庵全集』で補いつつ、資料の精査をもとに同時代的な意義を検証していく。このテーマに取り組む期間は、平成26年度であるが、まずは先行研究による西鶴の小説表現への影響を確認したうえで、不知庵の文芸批評を同時代の資料や他の西鶴批評と比較検討し、不知庵の西鶴評価の特徴を捉え直す。また、次年度に向けて、この時期から刊行されはじめた活版印刷による西鶴の翻刻本の調査を行う。

平成27年度は、前年の成果を踏まえ、ある価値観のもとに提供された西鶴の翻刻本を読者たちはどのように受容したのかを、他の翻刻との比較や時代の思潮から明らかにし、それらを支えた印刷技術や出版事業などの観点から、この時期の西鶴の流行現象と不知庵が果たした役割を総合的に考察する。具体的には、同時代の読者の多くが手にした、活版印刷による西鶴本の検討が中心となる。まずは雑誌に掲載されたものから帝国文庫版『西鶴全集』までの翻刻の調査、旧蔵書などの資料調査による、読書の痕跡を書き入れや、蔵書印などを手がかりとして同時代の受容について調べる。また、武蔵屋本の『好色一代男』・『好色五人女』に関する資料収集も行い、序文と本文（伏字などの編集工程）の検討を行う。

### 4. 研究成果

本研究課題について、以下得られた成果について述べる。また研究計画時には構想していたが実際研究に着手した後に同時代資料の資料不足等により、成果という形にまでは至らなかったものについても言及する。

平成26年度における研究成果を以下に述べる。(1) まず成果として的一件目は明治20年代の西鶴の流行現象に関して、文芸批評家としての内田不知庵がどのように関わったのかという問題について、先行研究を整理し、不知庵の西鶴評価の再検討を行った。その研究結果が平成26年度冬季全国大学国語国文学会における「師表」から「歴史」へ—明治20年代初頭における西鶴流行現象と内田不知庵—である。ここでは、西鶴を捉える時の不知庵のキーワードに注目して議論を展開した。これまで指摘されてきた西鶴批評の背景に、不知庵自身のなかで文学を論ずる枠組みが大きく変動していることを明らかにした。また、不知庵の西鶴批評の特徴を明らかにするために石橋忍月や坪内逍遙などの西鶴への関心とも比較した。

この研究と並行して不知庵の『好色一代女』の受容に関する研究にも着手した。この読書体験に関連して、尾崎紅葉が不知庵に書簡を送っており、不知庵の西鶴受容を解明する手がかりになるかと思われたが、この書簡にはそれほど手がかりになる要素が得られず、本

研究課題に着手する以前に取り組んだ研究である、「巻を掩ふて嘆ずる」不知庵（『日本近代文学』82集、2010年5月）の後半で言及した『一代女』の受容に加える新たな要素が得られなかったために成果という形にはしなかった。（2）続いて、平成26年度の二件目の成果として、十九世紀文学研究会において、「内田不知庵と西鶴本の翻刻—武蔵屋叢書閣版井原西鶴翻刻出版の役割と意義について」という発表を行い、江戸期西鶴本の本文と明治期の活版による西鶴本の比較を行った。この研究は、明治期の西鶴流行現象において、本文の普及という面で大きな役割を果たした活版印刷による西鶴本の特徴について考察したものである。特に翻刻を時系列に取り上げ、伏字の有無や相互の影響関係などについて考察をした。この研究では、諸本のわずかな特徴を捉えた程度であったが、会場での質疑応答を経て以下のような新たな課題を得た。一つは当時の西鶴の本文が持っていた影響を考察するうえでも武蔵屋本の伏字箇所全体の検討が必要であること、そして伏字の背景に関する調査を行うこと、さらには各出版社の本文の提供の諸相を検討することにより、同時代の西鶴受容の水準が見えてくるのではないかと、それによって本研究が最終的に目標とした広い読者（読み手）を意識した西鶴本の受容とその実態に迫れると着想したからである。平成26年度の半ばより、計画通り図書館が保管する明治期本について蔵書調査を進めていたが、読書傾向はまちまちで、読書の痕跡を確認することはできたが、これらの個々人の読書の痕跡を一般化して議論するには至れないと、研究手法上の限界を予想していた矢先であったので、この発表によって得られた新たな方針は次年度の研究に於いて大いに役立った。平成27年度は、実施計画に基づき昨年の発表によって得られた手がかりを研究の補助としながら、武蔵屋叢書閣が刊行した井原西鶴の浮世草子の出版方針と本文の編集に関する研究を行った。以下、平成27年度の研究成果となった論文を示し、その意義や重要性について記述する。（3）まずは「伏せられた西鶴—明治二〇年代の西鶴翻刻本における伏字とその背景」（『近代文献調査研究論集』国文学研究資料館、pp11～pp28、2016年3月）である。この論文では明治期の西鶴本に施された伏字の様相とその背景について考察した。江戸期の「板本」、明治期の「武蔵屋叢書閣版」と「帝国文庫版」の三種を『好色五人女』、『好色一代男』の二冊に渡って並記し、活字化された本文にどのような編集上の傾向が見られるのかを一望できるように作表した。その結果、「帝国文庫版」が「武蔵屋叢書閣版」を意識して伏字を施している様子や、「卑猥」な言葉以外にも伏せられているということが判明した。また、武蔵屋本の『好色五人女』の凡例と緒言の検討から、これらの編集の背景には文芸批評家である

内田不知庵が関わっており、ヘンリー・モーリー（1822—1894）が編纂したボッカッチョの『デカメロン』の編集方針に影響を受け、同時代の状況に鑑みて編集をしたことも明らかになった。この論文では一つの出版社に注目したが、西鶴本の普及の全体像を捉えるため、同時代の他の西鶴本の編集方針にも目を向ける必要が出てきた。また、木版と活版の本文の比較により、編集の方針にかなりの個性が見られるということも明らかになった。そこで、出版という問題系と西鶴の本文の普及という観点から研究を重ね、その成果として次の論文を執筆した。それが④「明治中期西鶴翻刻本における校訂の諸相—「解釈」のるつぼ」（『文芸学研究』第20号、pp1～pp21、2016年3月）である。この論文では、従来、「校訂」という意識が学問的に不十分であるということを経験してこなかった明治期の西鶴翻刻本について、翻刻者の個性的な編集方針として諸本の漢字への置き換え、句読点の有無などを検討した。その結果、西鶴の復興現象を支えた数多くの同時代の読者に向けて、同時代の翻刻には原本に正確であろうとする方針と、読者が読み易い本文への校訂があり、諸本はそれらの方針のいずれかに依りながら編集が行われていることを明らかにした。明治20年代の社会状況のなかで、高額に取引された原本とは対照的に、安価で手軽な活版による西鶴本がどのように受け止められたのか、創作には直接関わらない読者に向けてどのような本文が提供され、受容されていたのかという問題を時代の特徴という観点も加えながら考察した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

- ①大貫俊彦「明治中期西鶴翻刻本における校訂の諸相——「解釈」のるつぼ」『文芸学研究』、査読有、第20号、2016年3月 pp.1～pp.21.
- ②大貫俊彦「伏せられた西鶴——明治二〇年代の西鶴翻刻本における伏字とその背景」『近代文献調査研究論集』、査読無、2016年3月、pp.11～pp.28.

〔学会発表〕（計2件）

- ①大貫俊彦「「師表」から「歴史」へ—明治20年代初頭における西鶴流行現象と内田不知庵」、平成26年度冬季全国大学国語国文学会、平成26年11月9日、弘前大学。
- ②大貫俊彦「内田不知庵と西鶴本の翻刻—武

蔵屋叢書閣版井原西鶴翻刻出版の役割と意義について」, 第三回十九世紀文学研究会, 平成 27 年 3 月 28 日, 法政大学.

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

大貫 俊彦 (ONUKI, Toshihiko)  
木更津工業高等専門学校・人文学系・講師  
研究者番号: 70738426

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号:

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号: